

市民農園

高野瓜代農園

LIFE! vol.2

6月の苗植えは
キュウリ、オクラ、
落花生 など



ジャガイモの花

5月から6月にかけての高野瓜代農園では、エンドウが花を咲かせ、収穫の時期を迎えています。エンドウは、一気に花が咲き、多くの“さや”ができます。この時期に収穫すると「サヤエンドウ」として楽しめます。また、サヤエンドウの収穫を見逃し、大きくなってしまっても、それはそれで「グリーンピース(実エンドウ)」としても収穫できて、面白いものです。ほかにも、トマト、ナス、パプリカやジャガイモがよく育っています。育て方を自分流にアレンジすると、愛着が湧いて楽しくなります。トマトであれば、実ができ始めたら肥料を加える、実が大きくなる前は水分を少なめ、大きくなり始めたら水を多くする、わき芽を取って実に栄養が与えられるようにするなど…。ぜひ試してみてください。

▶申込・問合先 市役所経済課 農業振興G
内線262、263



エンドウの花



利用者
随時
募集中

新型コロナウイルスは、国内はもとより海外のアートシーンにも甚大な影響を与えています。そこで、昨年アークスに滞在した、ベルギーを拠点に活動しているクリストファー・ボーリガードに、今考えていることを聞いてみました。封鎖された首都のブリュッセルに住みながら、希望を捨てずに日々を過ごしている彼に思いを寄せます。

2019年度
レジデントアーティストの
帰国後の近況
COVID-19の影響について

A R C U S

Artist in Residence - IBARAKI

現在のアート・芸術文化を守谷から。

●問合先 アークススタジオ (もりや学びの里内)
日・月曜日休館 ☎ 46-2600 (10:00 ~ 18:00)
✉ arcus@arcus-project.com
◎詳細な情報はアークスプロジェクトで検索!



クリストファーからの
メッセージ



「どのように破産したのか?」と問われたアーネスト・ヘミングウェイの小説『日はまた昇る』のキャラクターは、こう答えます。「2段階ある。徐々に、そして突然に。」厳格なロックダウンが続く中、私は「これは一体いつ始まったのか?」と問わずにはいられませんが、今となつては、以前の状態を思い出すのも、先の未来について考えるのも難しい。COVID-19は、初めは、遠くで起こっている巨大な出来事の、途切れ途切れに聞こえてくる噂に過ぎませんでした。ヨーロッパでも感染が報告されるようになったときも、まだ多くの人は、よくある季節性インフルエンザのようなものだと思っていました。1月下旬のいつだったか、パプで友人とパンデミックの可能性について話していたとき、彼は私にサイエンス・

フィクションの読み過ぎだと言いました。「それに、ヨーロッパは世界でも有数の医療制度を誇っているし、僕たちが恐れる必要がどこにあるというんだ?」
しかし、イタリア全土でロックダウンが始まり、ほかのヨーロッパの国々でも国境の閉鎖と経済活動の封鎖が始まったとき、生活は一夜にして一変したのです。
文化産業で働く私たちには、厳しい状況が続いています。私たちの仕事の性質上(短期契約での雇用やフリーランスが多い)、ベルギー政府からは、ほとんど何の経済的支援も与えられていません。他の国々では家賃のストライキや、アーティストへの助成を求める声が上がっている一方、ベルギーはほとんど沈黙しています。
私たちが峠を越し始めているかもしれないという兆しはあり、ベルギーでは移動と経済活動の制限が近く解除されるといわれています。それによって、生活は徐々に元のように戻るのではないかと希望があります。たぶんいつの日か近いうちに、スタジオへと歩きながら辺りを見回し、突然、全てが終わったのだと気づくときがくるのでしょう。